

第1回 伊豆沼・内沼自然再生協議会会議録

I 日 時 : 平成20年9月7日(日) 午後1時から午後3時まで

II 場 所 : 栗原市農村環境改善センター 多目的ホール(1階)

III 次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員自己紹介
- 4 議 事
 - (1) 伊豆沼・内沼自然再生協議会規約(案)について
 - (2) 会長, 副会長の選任について
- 5 協議事項
 - (1) 自然再生推進法の概要
 - (2) 平成20年度に宮城県が実施する取組
 - (3) 伊豆沼・内沼自然再生全体構想(事務局案)
 - (4) 伊豆沼・内沼自然再生協議会の進め方(案)
- 6 閉 会

(配布資料)

- 資料1 伊豆沼・内沼自然再生協議会規約(案)
資料2 自然再生推進法の概要
資料3 平成20年度に宮城県が実施する取組
資料4 伊豆沼・内沼自然再生全体構想(事務局案)
資料5 伊豆沼・内沼自然再生協議会の進め方(案)

IV 出席者名簿

1 学識経験者(7名中7名出席)

区 分	氏 名	職 名	関連分野	出欠
学識経験者	小浜 暁子	東北工業大学工学部環境情報工学科講師	生態工学	出
	斉藤 憲治	独立行政法人水産総合研究センター東北 区水産研究所資源培養研究室長	魚類	出
	鹿野 秀一	東北大学東北アジア研究センター准教授	湖沼生態学	出
	嶋田 哲郎	財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財 団主任研究員	鳥類	出
	神宮字 寛	宮城大学食産業学部准教授	農村計画学	出
	西村 修	東北大学大学院工学研究科教授	生態工学	出
	横山 潤	山形大学理学部生物学科准教授	植物生態学	出

2 地元関係者（11団体10名中8名出席）

区 分	氏 名	職 名	出欠	
地元関係者	(農協)	小野寺 宏祐	栗っこ農業協同組合若柳支店長	出
		千葉 悦朗	みやぎ登米農業協同組合新田支店長	出
	(土地改良区)	鹿野 清一	一迫川沿岸土地改良区理事長	欠
		鹿野 清一	迫川上流土地改良区連合理事長	欠
		星 順一	穴山土地改良区理事長	出
		高橋 義矩	伊豆沼土地改良区理事長	出
		高橋 勝慶	新田北部土地改良区理事長	欠
	(漁協)	遠藤 吉雄	伊豆沼漁業協同組合組合長	出
	(商工会)	渡邊 一正	栗原南部商工会会長	出
		鈴木 慎司	若柳金成商工会会長	出
		高橋 勝利	登米中央商工会会長	出

3 環境関係団体, NPO 等（8名中7名出席）

区 分	氏 名	職 名	出欠
環境関係団体, NPO 等	相澤 庸郎	登米市迫町白鳥ガン愛護会会長	出
	安住 祥	NPO 法人シナイモツゴ郷の会	代理 理事 根元信一
	川嶋 保美	栗原市若柳愛鳥会会長	出
	呉地 正行	日本雁を保護する会会長	出
	及川 裕宏	ナマズのがっこう代表	欠
	佐藤 庄喜	栗原市築館愛鳥会会長	出
	高橋 雄一	宮城昆虫地理研究会代表	出
	竹丸 勝朗	宮城県野鳥の会宮城県支部支部長	代理 幹事 山田洋治郎

4 公募委員（5名中5名出席）

区 分	氏 名	職 名	出欠
公募委員	加藤 勝利	(栗原市若柳在住)	出
	久保田 龍二	(宮城郡七ヶ浜町在住)	出
	鈴木 康	(栗原市若柳在住)	出
	堀川 邦雄	(仙台市泉区在住)	出
	三塚 牧夫	(栗原市築館在住)	出

4 行政機関（10名中7名出席）

区分	氏名	職名	出欠	
行政機関	(国)	赤倉 正弘	農林水産省東北農政局整備部地域整備課長	出
		島田 昭一	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所長	出
		伊藤 勇三	環境省東北地方環境事務所野生生物課長	出
	(県)	安齋 文雄	宮城県環境生活部次長	出
		永倉 正俊	宮城県農林水産部次長	出
		伊藤 直司	宮城県土木部次長	出
	(市)	星 英雄	登米市市民生活部長	出
		小野寺 富雄	登米市産業経済部長	出
		小澤 敏郎	栗原市市民生活部長	出
		小林 吉雄	栗原市産業経済部長	出

5 委員以外

区分	氏名	職名	出欠
オブザーバー	佐藤 勝幸	宮城県土木部東部土木事務所登米地域事務所長	出
	高橋 義信	宮城県土木部河川課河川整備班技術主幹	出
	赤坂 博幸	宮城県環境生活部環境対策課技術主幹（水環境班長）	出
	渡部 正弘	宮城県保健環境センター上席主任研究員	出
	鈴木 桂輝	宮城県農林水産部農村振興課広域水利調整班主任主査	出
事務局	森林 和宣	環境省東北地方環境事務所野生生物課	出
	小幡 昭夫	宮城県環境生活部自然保護課長	出
	田畑 正紀	宮城県環境生活部自然保護課技術副参事兼技術補佐（総括担当）	出
	横山 茂樹	宮城県環境生活部自然保護課課長補佐（自然保護班長）	出
	宮腰 俊也	宮城県環境生活部自然保護課自然保護班主任主査	出
	佐藤 大輔	宮城県環境生活部自然保護課自然保護班主任主査	出
	前場 大二	宮城県環境生活部自然保護班主事	出
	横田 浩志	登米市市民生活部環境課課長補佐	出

	後藤 直規	栗原市市民生活部環境課係長	出
	高橋 昌美	栗原市市民生活部環境課主事	出
	佐竹 三男	財団法人宮城県伊豆沼・内沼自然環境保全財団 事務局長	出
	進東 健太郎	財団法人宮城県伊豆沼・内沼自然環境保全財団 研究員	出

V 会議内容

1. 開会

事務局が開会を宣言した。

2. あいさつ（宮城県環境生活部次長）

本日は、お忙しい中、また休日にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

最初に、この協議会につきましては、当初は7月に開催する予定でしたが、6月14日に発生しました岩手・宮城内陸地震の影響により延期となり、本日の開催となりました。皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

さて、伊豆沼・内沼の自然再生につきましては、昨年度、自然再生事業準備委員会を2回開催し、自然再生全体構想の骨格案を御議論いただきました。その中で、「昭和55年の大雨被害が発生する以前の頃の姿を目指す」という目標について、共通理解が得られたところです。

今年度はいよいよ、自然再生推進法に基づく協議会を設立し、自然再生に向けた基礎調査を実施するとともに、自然再生全体構想の策定を進めます。

基礎調査につきましては、5月末から着手しておりますが、本日の協議会で、その内容について御説明させていただきます。また、自然再生全体構想につきましても、昨年度の骨格案に肉付けする作業を進めており、本日は現段階での事務局案を説明させていただきますので、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。

さらに、この自然再生協議会につきましても、今後の進め方などについて御説明させていただき、御意見を頂戴したいと思います。

最後になりますが、伊豆沼・内沼の自然再生のためには、皆様の御協力と御参加が不可欠です。この協議会がそのきっかけとなることを御期待申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 委員自己紹介

本日出席の各委員から自己紹介があった。

4. 議事

※ 宮城県環境生活部自然保護課田畑技術副参事が司会進行

(1) 伊豆沼・内沼自然再生協議会規約（案）について

○ 事務局から資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

(2) 会長、副会長の選任について

○ 会長には、昨年度、伊豆沼・内沼自然再生事業準備委員会の委員長を務めていただいた西村修委員に、副会長には、同じく同準備委員会で副委員長を務めていただいた斉藤憲治委員にする事務局案を説明し、原案のとおり承認された。

○ 会長就任のあいさつ（西村会長）

御推薦いただきありがとうございます。大変微力ではございますが、皆様の御協力をいただきまして務めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会長の任を務めるに当たり、皆様をお願いしたいことを申し上げます。

伊豆沼・内沼の素晴らしさについては、私よりも皆様の方がお詳しいと思います。しかしながら、伊豆沼・内沼はさまざまな問題も抱えております。この伊豆沼・内沼の自然を再生していくことが本協議会の任務です。皆様には率直に忌憚のない御意見をいただき、次世代にどのような伊豆沼・内沼の素晴らしさを残していくかという中・長期的な展望に立って、いろいろな分野、考えをお持ちの方からお話をいただき、本協議会でそれらをまとめ、実行していきたいと思っております。

協議会自体は行政が事務局を務めますが、協議会の皆様が主体的に行動していくということが原則となります。そのような意識を強く持っていただきながら、地域の中で、世界の中での伊豆沼・内沼の位置付けを考えていただき、積極的に主体的に行動していただきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願い致します。

○ 副会長就任のあいさつ（斉藤副会長）

大変光栄に存じます。微力ではありますが、務めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。会長の西村委員は工学が専門で、伊豆沼は河川の一部であることから、この土木工学的、環境工学的な観点が必要になると思っておりますので、その専門家を長にするということは正しい考え方だと思います。私は淡水魚を専門としておまして、生物の観点から発言することで会長を補佐するという役目を期待されたものと理解しています。

生き物というものは、人間の社会のルールや秩序に関係なく、生きたり死んだりしています。そこに人間社会のルールや秩序をかぶせたことにより自然が破壊されたものと思っておりますので、その自然を再生するためには、人間社会のルールや秩序と生き物の生きたり死んだりという決まりごととの調整をする役割を果たしていきたいと思っております。できるだけ、生き物の臭いのする話をするとともに、皆様から生き物の臭いのする話を聞かせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

5. 協議事項

西村会長	協議事項の（１）から（３）までは関連があるので、一括して事務局から説明願う。
事務局	（資料２から資料４に基づき説明）
西村委員長	事務局の説明に対し、意見・質問はないか。今回は第一回目の協議会なので、現在の説明に対する意見や質問の外、各委員が今後取り組んでいきたい事項などについて自由に発言願う。また、昨年度までの準備委員会に参加していなかった委員もいるので、今の説明の内容に限らず、伊豆沼・内沼の自然再生全般について発言願う。
高橋(義)委員	伊豆沼の水生植物を再生させるには、水質の改善が一番大事である。伊豆沼には、冬から春にかけて西風が強く吹き、東方向に30～40cmの大きな波が押し寄せるという特徴がある。その頃はちょうど沼の水位が下がっているため、伊豆沼の流出口に土砂が堆積し続けている。その証拠に、水位が低く湿地に生えるヨシが流出口に多く生えており、年々そのヨシ原は広がり、流出口が狭くなっている。数年前には、この状況を良く把握していただいて浚渫をしてもらったが、当時の予算が少なく効果はあまりなかった。今度は、水が動くことで水質が浄化されるものだと聞いて

	<p>ているので、そのためにも浚渫により流出口の間口を広げてほしい。</p>
川嶋委員	<p>資料4の10ページの6行目に「昭和55年（1980年）、昭和56年（1981年）と二年連続で伊豆沼・内沼を襲った洪水」とあるが、昭和56年には洪水がなかったかと思うが、この記述の裏付けはあるのか。</p>
事務局	<p>手元に気象データが無いのでデータで示すことはできないが、地元の方のお話しなどを総合的にまとめてこのように記載した。後ほど確認し、必要であれば修正したい。</p>
三塚委員	<p>資料4の9ページの図に、「現在は下水道や畜産基盤の整備が進むとともに、農薬基準厳格化、排出規制強化等も進む」とあるが、現在、荒川流域の一部で下水道が整備されているが、伊豆沼・内沼の上流の照越川や八沢川、太田川流域については依然として下水道の整備がされていない。私は八沢川上流域に住んでいるが、依然として生活雑排水が流下している。伊豆沼・内沼の浄化のために水質をきちんと管理するには、下水処理を計画立てて行う必要がある、さらに、地形の特徴を踏まえて合併浄化槽の導入度合いも見ながら、水質改善の方策を立てることが必要である。伊豆沼の水質が改善されるというのは生活雑排水の流入を防止するというのがひとつのポイントではないかと考えているので、これを機会に何らかの方策を立てることが必要だと考える。</p>
西村会長	<p>ただいまの意見や高橋（義）委員の意見を9ページの各課題の連関図の中にうまく組み入れてほしい。その他、まずは伊豆沼・内沼の問題を広く網羅的に捉えていきたい。全てを全体的に取り組むことは難しく、結果としては一つひとつ取り組んでいくことになるかもしれないが、まずはいろいろな意見を伺いたい。</p>
遠藤委員	<p>今後、事業に順次取り組んでいくことになると思うが、事業費はどれくらいまで出せるのか。事業内容によっては事業費の上限を問わないという性格なのか教えていただきたい。</p> <p>また、漁協では、先般、資料を作成して、周辺の住民の方や会社の方の御意見を伺いながら、家庭から流れる生活雑排水や会社から流れる工業用排水を調べた。その中で、ある会社の社長から、伊豆沼の自然再生に何らかの貢献をしたいという話があった。そこで、自然再生事業について話したところ、水質改善のための資金を提供したいという話があり、具体的な話を詰めて再度話をしたいということにした。今後、このように周辺の関係者と連携を取りながら自然再生事業を進めていってはどうか。</p>
事務局	<p>事業費については、全体構想や実施計画でどのような事業を行うのかによって決まるものなので、一概にトータルでいくらということとは言えない。</p> <p>流域内の企業を巻き込むことについては、今後、漁協を始め地元の各団体から情報をいただきながら自然再生の趣旨を広げていくとよいだろうと思う。</p>
遠藤委員	<p>全国にある19の自然再生協議会のうち、早くから取り組んでいる協議会の実態を調べた資料などはないのか。</p>
事務局	<p>全国の協議会を調べたことはない。本日は手元に資料がないが、宮城県内で行われている蒲生干潟の事業費については調べることができる。ただ、蒲生干潟におい</p>

西村会長	<p>でも現在進行形で進んでいるので、全体の事業費が固まっているわけではない。</p> <p>他の協議会から学べることもあると思うので、集められる資料は集めてもらいたい。</p>
遠藤委員	<p>伊豆沼・内沼を考える会議を平成17年から18年まで開催した経緯があるが、今回の自然再生事業では、机上の空論で終わらないように、できるだけ事業を実施するようにしていただきたいと思い、先ほどのような質問をした。</p>
西村会長	<p>本協議会では、基本的に自然再生をどんどん進めていきたい。同時に、事業を行うことでこのように良くなるという論理的な説明を出すということも重要な役目である。また、いろいろな地域の方から御協力していただけるという話があるようなので、そのような情報は事務局の方に提供をしていただき、協力の申し出について具体化していきたい。</p>
呉地委員	<p>資料3において今年度事業として抽水・沈水植物復元基礎調査を行うとされており、その中で③沈水植物各種の遺伝的多様性と繁殖状況の調査という項目があるが、これがどのように復元に関わってくるのかを教えてください。また、ハスの刈取り作業をするとあるが、今年、具体的にどのようなことをやろうとしているのかを教えてください。</p>
事務局	<p>伊豆沼・内沼における沈水植物の絶対数はかなり減っており、それに比例して遺伝的多様性も減っているだろうということが予測される。沈水植物各種の遺伝的多様性と繁殖状況の調査は、伊豆沼・内沼に現在自生している沈水植物を採取してDNA解析するとともに、さらに、伊豆沼集水域や周辺の沼においても同じような調査を行い、伊豆沼・内沼に移植することが可能かどうかの検討も行う。</p> <p>ハス刈取りについては、花が咲いている状態や葉が大きい状態で刈り取れば、栄養塩の持ち出しに効果があり沼の浅底化にも効果があるだろうと考えられ、9月に手刈りで1人当たりどれくらい刈り取れるのかということ进行调查したいと考えている。あくまで目安だが、今年度は試験施工としてトータルで4,000㎡前後を刈り取りたいと考えている。</p>
呉地委員	<p>以前は、伊豆沼には沈水植物があったが、現在は消えてしまい、植物プランクトンが増えることにより透明度が落ちている。この状況で水質だけを変えても植物プランクトン増加による透明度低下の解決にはならず沈水植物は回復しないと思う。琵琶湖などの状況を聞くと、このような状況を変えるには、例えば一回沼を干すというような何か劇的なきっかけが必要で、ゆっくりと回復するということはなかなか難しいようである。この点は本自然再生事業でも重要な部分だと思うので、この点も調査項目に入れるべきと思うが、専門家の意見を伺いたい。</p>
横山委員	<p>まず、遺伝的多様性の調査については、次の方策としてどういうことをやったらよいのかという優先順位を決定するための基礎情報収集を目的として行っている。調査により、すでに伊豆沼・内沼の沈水植物に遺伝的多様性が無いことが分かれば、遺伝的多様性を増やすことは大変な作業となるので、当面は個体数を増やすことに力をつけることになる。一方、遺伝的多様性が十分にあるという状況であれば、例えば、それぞれの遺伝型ごとに個体数を増やして試験的な埋め戻すというような遺伝的多様性に配慮した形で個体数を増やすことができる。また、事務局からも説明</p>

	<p>があったように、例えば伊豆沼・内沼のクロモが使えないという状況になったときに、伊豆沼・内沼に移植可能なクロモが自生する場所があるのかということを検討する基準としても遺伝的多様性の情報を使いたいと考えており、そういった観点から、現在、宮城県内のクロモ自生地各地における遺伝的多様性の調査も進めている。</p> <p>次に、指摘のとおり、沈水植物群落を復元することは非常に難しいと考えている。クロモ群落が広く発達していたであろう時期の伊豆沼・内沼と現在の伊豆沼・内沼とではいろいろな状況が変わっていると思われる。ただ、今回、浮葉植物が無いところには沈水植物が残っているという現地調査データから、浮葉植物と沈水植物の関係が重要であるということが分った。今後、このような関係から、何らかの方法で沈水植物群落をコントロールできないかと考えている。そういったことも含めて、①沼内分布状況調査及び他の水生植物との競合状況の把握と②生育環境の物理的特性の調査を行うことで、今後どのような方法で沈水植物群落の復元を行ってあげればよいかと考える手だてにしていきたい。なお、現状では、浮葉植物のコントロールに周辺のヤナギ林の存在がうまく働く可能性があるのではないかとという目星が付き始めている。このような他の植物との関連を上手く使いながら沈水植物を増やすことができないかと考えている。</p>
山田代理	<p>資料4の14ページの表3-2のサブ目標生物一覧において、鳥類の越冬の第3段階以降として内陸性シギ、チドリ類を挙げたことに疑問を感じる。まず、「越冬」という分類よりも「渡来」とした方が、第1段階に冬鳥としてガン・カモ、ハクチョウ類が挙げられたこと、第2段階の冬鳥としてヒドリガモ・オカヨシガモが挙げられたことが説明できるのではないか。また、第3段階以降で内陸性シギ・チドリ類が挙げられているが、これらの種は、北で繁殖して、南で越冬し、その間大部分が日本を通過する鳥である。生息環境さえ整備すれば、越冬というよりも、春と秋のシーズンに伊豆沼に渡来するものである。そのため、第3段階にクサシギやヒバリシギなどの内陸性シギ千鳥を設定した意味がよくわからないので、検討した方がよいのではないか。</p>
嶋田委員	<p>クサシギやヒバリシギといった内陸性シギ・チドリは湿地環境の豊かなところで確認され、伊豆沼もいずれそういうような環境になれば良いという意味合いで挙げさせていただいた。「越冬」や「渡来」という分類の問題については、検討したいと思う。</p>
川嶋委員	<p>伊豆沼において、本年も9月23日に伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンが行われる。昭和57年から始まり毎回1200人～1300人が参加しており、最近は年2回開催され、概算でトータル300t以上のゴミが沼から回収されている。このクリーンキャンペーンについての記載も、資料4の8ページの(3)地域住民と沼とが関わる機会の減少の項目に加えてもらいたい。</p> <p>また、10ページに伊豆沼・内沼の面積が約387haと記載されているが、伊豆沼と内沼のそれぞれの面積や、水面のみの面積なのかという部分を詳しく記載した方がよいと思う。</p> <p>13ページに目標生物としてヌカエビやゼニタナゴが挙げられており、これは沼を代表する生物として非常に大事だと思うが、ヌカエビやゼニタナゴの調査・繁殖を沼の中で行うことは非常に難しいのではないかと思います。伊豆沼以外の地域でモデル的に調査・繁殖を実施するという方法もあるのではないかと。</p>
事務局	<p>8ページにクリーンキャンペーンの記載を追加することについては、前向きに検</p>

<p>星（順）委員</p>	<p>討する。</p> <p>10ページの伊豆沼・内沼の面積の記述内容については、次回までに詳しい記述としたい。</p> <p>ヌカエビやゼニタナゴの調査方法等については、事務局としても今後の検討課題と考えていた。いわゆるビオトープのような形でそこに確保してはどうかという意見かと思うが、事務局としても、ゼニタナゴの全体構想期間内の目標に記載しているように、繁殖したものをいきなり沼に返すことは難しいと考えており、まずは水槽や沼に近い環境で増やしていきたいと考えている。ヌカエビについても同じような方法がとれないか検討したい。</p> <p>資料4の1ページの図面は、自然再生の対象となる区域としていつも使われるものである。先ほど、高橋（義）委員からも話があったように、伊豆沼は私たち土地改良区にとっては用水源であり、この地域のダム役目もしている。当然、迫川が増水して仮屋水門が遮断されると、内水をこの伊豆沼と内沼で全部受け止めることとなり、そのためにこれまで洪水が起きてきた。この流域には長沼ダムが隣にあり、迫川と長沼を結ぶ導水路があるが、ここに3つの新しい強制排水のポンプ場ができる。また、仮屋水門の上流から下流に強制的に汲み出す稼働ポンプも設置される。これらポンプ場が4つ設置され、動き出すと、洪水の心配はほとんどなくなるのではないかと思う。そうすると、洪水調整優先、用水確保ということで、1月から8月まで飯土井水門において担ってきた水位調整の役目を根本的に見直しても良いのではないかと思っている。そうすると、例えば、飯土井の水門では、水位調整のためにオーバーフローで上水のみを流しているが、洪水の心配がないとすれば、ある程度の雨が降るという予想が出たときに、水門を全部倒して、沼の中に流れを呼び戻すことができるのではないかと思っている。もちろん、土木などの専門家の意見も必要だが、このような新たに設置されるポンプの位置を図面に明記することで、水の流れをどのようにできるのかを分かるようにしてはどうかと思う。</p> <p>また、7ページの地図を見ると、伊豆沼の出口は荒川しかないことが分かる。この荒川の出口の部分では、沼の形が鋭角になっているが、昔はそのような地形ではなかった。この部分については、JR東北本線の鉄橋の部分まで開削して欲しいという要望をずっと出している。今年も8月16日からずっと集中豪雨などがあり、荒川の飯土井水門下流はかなりの速さで流れているが、伊豆沼はここで流れが堰き止められ、流れない状態である。この箇所は前に浚渫してもらったが、今では沼の中にヤナギやヨシが生えていき、流れの妨げとなっている。自然保護団体や伊豆沼・内沼環境保全財団とも話し合っているが、この箇所のヨシの刈取りを行っていただきたい。</p> <p>私たちは、農家としても、水質の確保は非常に大きな課題と考えており、これまでも自然保護団体の皆さんとも一緒に活動を行いながら取り組んできており、今後も協力していきたいと考えている。</p>
<p>西村会長</p>	<p>水の流れについて新しい可能性がありそうな内容の発言であった。今後、治水関係部署との調整が大切となるが、新しい資料について検討していただきたい。</p>
<p>三塚委員</p>	<p>資料4の16ページの重点的に進めていく施策として、外来魚の駆除対策を追加することはできないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後、作成していく中で対応していきたい。</p>

呉地委員	<p>伊豆沼・内沼にはいた方がいい生き物と、いない方がいい生き物がある。ブラックバスも含めた、いない方がいい生き物の目標を明確に作り、それらをモニターし、数が減れば成果が出てきたという評価を行えば、どこまで自然再生できたかという目安になると思う。</p> <p>また、8ページに、昭和60年のラムサール条約指定湿地登録以降、伊豆沼・内沼には手を付けてはいけないという保護思想が強まったという記載があるが、この背景には、ラムサール条約の精神とは何なのかをきちんと伝えてこなかったことがその原点にある。ラムサール条約への誤解は現在も続いており、未だにラムサール湿地になると何もできないと思い込んでいる人が多く、沼は登録されているが、既に国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されている周辺の水田まで指定を広げられないという変則的な状態が続いている。この箇所の記述は、伊豆沼・内沼はラムサール湿地に登録されたが、湿地の賢明な利用についての啓発普及が十分に行われなかったため、誤解や問題が起きたと変えて、伊豆沼・内沼のたどってきた経緯を正確に記載した方がよい。</p>
事務局	修正案を考え、呉地委員をはじめ、各委員に確認していただきたい。
高橋（雄）委員	資料4の14ページのサブ目標生物一覧についてだが、例えば植物の第三段階のジュンサイやヒツジグサが生育していた頃の伊豆沼の水質や水深、底質などの生育環境を把握しているのか。または、現在それらが生育している他の地域の環境を調べているか。そういったことを調べてその調査資料を付けると、現在の状況と目標とする状況とがより明確になるのではないか。
事務局	全ての生物について調べてはいない。生物により生息環境が異なると思われるので、そのデータを全て載せると逆に分かりづらくなる可能性もあるが、基礎資料としてデータを揃えたい。
堀川委員	これまでの議論に出てきたように、伊豆沼では、ブラックバス駆除やクリーンキャンペーンのような活動が行われている。私は仙台で市民活動に参加しているが、土木工学的な考え方や生態学的な調査のような学術的なものも大切だと思うが、地域住民の方が伊豆沼・内沼に関心を持ち、地域の誇りとして環境を改善していこうと声を上げるようになることが、地域おこしとしては大変重要であると思う。そういう考え方に立つと、ハス刈りやヨシ刈りなどの活動についても地域住民にお知らせをしてその必要性を知らしめ、これらに地域住民の方々が市民レベルの活動として参加していく下地作りをすることが、資料4にも書かれている利活用を進めるためにも必要だと思う。この点については、今のうちからできることがたくさんあると思うが、意見を聞きたい。
事務局	お話しのとおり、ブラックバス駆除についてはバスバスターズという形で多くのボランティアの方に参加していただき、非常に長い歴史のあるクリーンキャンペーンについても多くの方に参加していただいている。ただ、こちらで課題としてあげたように、これらの活動が目に見えづらく、また、一定以上活発化しないというような問題もあるので、今後、このような活動を掘り起こして、全体構想の中にも書き込んでいくという作業を今後行いたい。
呉地委員	ハスの有効活用に関連してお話ししたい。今年、会議でベトナムに行ってきた際に、ベトナム茶を飲んだところ、おいしかった。ベトナムは国の花がハスで、ベト

	<p>ナム茶はハス花茶である。日本に帰ってインターネットでハス花茶について調べると、いろいろな種類があった。個人的には、香りも良く、ジャスミン茶よりも上質だと思った。ハスの有効活用の中にこういうことも入れてはどうかと思う。</p>
事務局	<p>ハスの有効活用については、今年は紙漉きを行いたいと思っている。ハス花茶については初めて聞いた話なので、これから検討していきたい。</p>
西村会長	<p>続いて、協議事項（４）、伊豆沼・内沼自然再生協議会の進め方について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>（資料５に基づいて説明）</p>
西村会長	<p>ただいまの説明について意見・質問はないか。</p>
鈴木委員	<p>今年度、ハスの刈取りについての話があり、できれば私も参加したいと思っているが、どのように参加すればよいのか分からない。今後、このような活動について情報提供をしてもらい、興味を持った委員や一般の方が興味を持ったときに参加できるようにしてもらえればと思う。</p>
事務局	<p>今回については情報提供が遅れてしまったが、今後、積極的に広報活動を行いたい。</p>
西村会長	<p>その他、本日の資料については修正や追加があれば事務局に意見を伝えてもらいたい。以上で協議を終了する。</p>